

かがやき新聞(京北版)

く神無月く

★山国さきがけフェスタ

く 山国隊に参加 く

去る一〇月九日、山国地区で開催された「山国さきがけフェスタ」で毎年行われている時代行列の「山国隊」に参加してみないかとお誘いを頂き、私は鉄砲隊の一員として行列に参加しました。

山国隊は鳥取藩に随行し官軍の一派として名を轟かせた農兵隊で、時代祭の維新勤皇隊のモチーフとなりました。神輿の渡御に先立ち、鼓笛隊を先頭に鉄砲隊を従えて町内を回ります。

隊列は山国在住の方や山国に縁のある方で構成されていることは知っておりましたので、京北に縁はあるもの、よそから来た私でも大丈夫かと不安になっておりましたが、山国隊軍楽保存会の実行委員会のご厚意により、隊列に加わることが叶った次第です。

私は羽織袴を着るのも初めて、草鞋を履くのも初めてで不安が渦巻くまま隊列に加わりました。翌日、見物に来られていた京北出張所の職員さんからお話を伺いましたが、割とさまになっていったとか(ここは前向きに受け取ることになります)。

鉄砲隊の担ぐ鉄砲は重厚感のある造りで、およそ5キログラム程でしょうか。それを担ぎながら7キロメートルの道程をゆっくりと行進していきますので、なかなかハードな道程でした。

各町ではご祈祷のあと、軽食や飲み物等の振る舞いを受けます。ここで疲れを癒して次の目的地へと向かうのですが、各町の皆様は隊列と担ぎ衆を温かく歓迎して下さいます。道々の皆様も手を振って下さったり、中には手を合わせて下さる方も。山国隊はそれだけ山国地域においてかけがえない存在であることを肌で感じた瞬間でした。

さきがけフェスタ終了後、実行委員様よりいろいろとお話を伺っておりまして、担い手の減少と高齢化が進んでおり苦心されているとの事でした。今回は都合により私のみの参加となりましたが、来年は菅本隊員と共に馳せ参じたいと思います。



撮られているとは
露知らず...



山国神社の参道より。山国神社でご祈祷を受けたのち、各町内へ向けて出発します。



担ぎ手衆のみならず、お疲れさまでした！

★右京区まちづくり区民会議

九月三十日、右京区役所（サンサ右京）にて、「右京区まちづくり区民会議」が開催されました。京北出張所においても、「京北まちづくりカフェ」という取組がなされておりますが、右京区まちづくり区民会議は京北地域を含む右京区全体の団体が対象となることから、多数の出席者で会場は賑わっております。

参加団体もバラエティに富んでおり、交通機関に関する取組から食に関する取組まで、十以上の団体の発表がありました。参加者はそれぞれ「イイね！シール」を手渡され、気に入った団体ブースに設置された台紙に貼り付けていきます。私は交通機関に関する取組と主に児童を対象とした森林フィールドワークの取組に「イイね！」させて頂きました。なお、京北出張所においては十月中頃に開催致しました、片波源流域での「友活トレッキング」の告知や観光スポットのご紹介を。片波源流域の伏条台杉群は男女年齢層問わず関心が高いようでした！

発表会後は大型小売店のもたらす地域の疲弊についての講演がありました。実は全国チェーンの大型小売店での売り上げは地元で還元されません。企業は本店所在地の自治体に納税するからです。数と規模の論理で地元の小売店は淘汰され、どんどん姿を消しているのが現状です。そんななか「買い物難民」なる、笑えない表現まで登場するようになりました。若いうちは車や自転車でお買い物ができますが、歳を重ねていけばそれが出来なくなる可能性も否定はできません。京北にあっても、ネットスーパーなどの存在がメジャーになれば「地元でお買い物ができない」という困ったことになりかねません。

講演後はシャッフルされた参加者が数名ずつテーブルに座り、講演のテーマに沿ったグループワークに取り組みます。グループワークというのは面白いもので、初対面同士であっても、会話の中からいろいろとアイデアが浮かんでくるものです。しかし、現在の環境に慣れきってしまっていることもあり、結局は大企業の思うツボ？という状況になっていることに気が

付かされます。ただ過去を懐かしむだけではなく、例えば少しずつでも「変わる」と信じて実際に意識し行動していくことが重要ですね。



会場全景。多くの参加者で賑わいます



伏条台杉群の話題で京北出張所ブースは多くの方々にお越しいただきました



各ブース、取組発表の模様です。



京都大学教授による、講演会の模様

かがやき新聞（京北版）

京都市役所文化市民局 地域自治推進室
北部山間かがやき隊・京北担当 三谷 博文

お問合せ先 （右京区役所 京北出張所）

電話 （〇七五）八五二一一八一

E-mail niqdc130@city.kyoto.lg.jp